毛澤東選集

第一卷

★

三一書房

一九五七年九月十五日　発行

検印
廃止

三一書房

毛澤東選集　第一巻

定価　七五〇円

編者　毛澤東選集刊行会
発行者　田畑弘
印刷所　京都市下京区西洞院七条下ル　内外印刷株式会社
製本所　京都市下京区油小路正面　株式会社　古川製本所
発行所　株式会社　三一書房
京都市左京区北白川西平井町二四
電話　吉田⑦三一〇〇番
振替　京都　六四〇三一番
東京都千代田区神田神保町一ノ一四
電話　東京㉙一八五一番
振替　東京　八四一六〇番

落丁・乱丁本はおとりかえいたします

全四巻　第一回配本

本選集の出版について

本選集には、中国革命のそれぞれの時期における毛澤東同志の重要な著作がふくまれている。数年前、各地方でいくつかのちがった版の『毛澤東選集』が出版されたが、いずれも著者の審査をうけていないものであり、体裁もひじょうに乱雑で、字句にも誤りがあり、また一部の重要な著作がおさめられていない。現在のこの選集は、中国共産党成立後に経過した五つの歴史的な時期にしたがい、また、著作の年月順にしたがって、編集されたものである。この選集には、各地方でこれまでに出版された選集にはまだふくまれていない重要著作をできるだけあつめた。選集中の各篇の著作はすべて著者の校閲を経ており、そのうちには、著者が、多少、文字のうえで修正したのもあり、また、ある篇では多少、内容上の補足と修正がくわえられている。

つぎに、出版事務についてのいくつかの点を明らかにしておく。

第一に、いま出版されるこの選集はまだあまり完全なものではない。国民党反動派が革命文献のいん滅をはかったために、また長い間の戦争のなかで革命文献が散逸したために、いまなお毛澤東同志の全著作、とくに毛澤東同志が書いた多くの手紙や電報（それらは毛澤東同志の著作のなかで非常に大きな部分をしめて

いる）がさがしだせない。

第二に、これまでずいぶん読まれた一部の著作のうち、たとえば『農村調査』は、著者の意見にしたがって、ここには収めていないし、また、『経済問題と財政問題』も、著者の意見にしたがって、そのなかの第一章（すなわち「過去の活動の基本的総括について」）を収めただけである。

第三に、選集には多少の註釈がくわえられた。そのうちの一部分は解題的なものであり、各著作の第二ページ目の左端（三一版日本語訳本では各著作の表題のすぐあと）に置かれてある。他の部分には、政治的性質のものと、技術的性質のものとがあるが、いずれも各篇の末尾についている。

第四に、この選集には二種類の装訂本がある。その一つは、各時期の著作を合冊にした一巻本であり、他は四巻本である。四巻本の第一巻には第一次国内革命戦争の時期と第二次国内革命戦争の時期の著作がふくまれ、第二巻と第三巻には抗日戦争の時期の著作がふくまれ、第四巻には第三次国内革命戦争の時期および中華人民共和国成立以後の著作がふくまれている。

中共中央毛澤東選集出版委員会

一九五一年八月二十五日

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

凡例

一、これまでの本選集日本語訳には、三一書房刊行青表紙六冊本と「三一新書版」七冊本（いずれも原本第三冊まで）があり、青表紙B6版六冊本のはじめの二冊には、中国原本になかったものを、日本の読者の参考にと考え、附録としてのせておいた。しかし、その後、中共毛澤東選集出版委員会の意見にしたがい、その方針をあらためて、原本どおりにした。「三一新書版」および本版は原本第二版によっており、原本第二版は第一版にくらべて、各篇の排列が多少ことなっており、また、著者によって多少訂正されている部分がある。なお、毛澤東選集出版委員会の註釈にも多少の訂正や削除があり、新しい註も一、二加えられている。新書版および本版はこれらの点をすべて原本第二版によって訂正してある。原本第四巻がちかく出版されるので、本版にはこれを加える。

一、はじめの旧訳本には誤植、誤訳、不適訳のところがかなりあり、不十分なものであった。新書版では根本的な改訳をおこなったが、なお、誤植がかなりにあった。本版はこの点を改めるとともに、部分的に訳の調子をあらためた。

一、改訳にあたっては、中国外文出版社版英語分冊本、ロシア語訳本、ロンドン英訳本を参照した。部分的にはドイツ語訳本をも参照した。これら語本で多少解釈を異にしているところについては、いずれにもかたよらず、併せ参照しながら、われわれ独自の理解で訳出した。

一、段落を原本どおりにすると、改行がすくなく、読みづらいので、改行を多くするために、段落のきりかたはロシア語

訳本にしたがった。この点では、英訳本も原本どおりにせず、改行を多くしている。

一、註のつけかたについては、毛澤東選集出版委員会の原註は〔一〕、〔二〕……で各篇の論文の終りに原本どおりにいれ、訳註は〔1〕、〔2〕……で各段落の終りにいれた。なお、理解を容易にするため、訳者が補ったことばは、そのことばのつぎに〔……〕でいれた。文中にある（……）括孤内のことばは原著者の補足である。

一、読者ならびに各方面の権威者の方々の御援助により、旧訳にあった不備や誤訳は著しく改められたものと信じているが、なお、今後とも、この偉大な理論と経験の豊庫を正しく日本国民につたえ、日本国民のものにするために、不備な点をあらためるよう努力してゆきたい。ここに援助と叱正を切望するしだいである。

一九五七年九月

日本毛澤東選集刊行会

目次

第一次国内革命戦争の時期

中国社会各階級の分析……三
湖南農民運動の視察報告……二七
　農民問題の重大性……二七
　組織せよ……二九
　土豪劣紳を打倒し、すべての権力を農民組合へ……三〇
　「むちゃくちゃだ」と「たいへんけっこうだ」……三二
　いわゆる「ゆきすぎ」の問題……三三
　いわゆる「ごろつき運動」……三六
　革命の前衛……三七
　十四の大事業……四二

第二次国内革命戦争の時期

中国の赤色政権はなぜ存在し得るのか……七七

一、国内の政治状勢……七七
二、中国赤色政権の発生とその存在の原因……七九
三、湖南・江西省境地区の占拠と八月の失敗……八二
四、湖南・江西省境地区の占拠が湖南、湖北、江西三省ではたす役割……八四
五、経済問題……八四
六、軍事的根拠地の問題……八五

井岡山の闘争……九一

湖南・江西省境地区の占拠と八月の失敗……九一
占拠地の現勢……九八
軍事問題……九九
土地問題……一〇七
政権の問題……一一一
党の組織の問題……一一三
革命の性質の問題……一一八
占拠地区の問題……一二〇

党内のあやまった考えの是正について……一二九

単純な軍事的見地について……一三〇
極端な民主化について……一三三
非組織的な見地について……一三五

絶対的平均主義について……一三六
主観主義について……一三八
個人主義について……一三九
「流寇」的な考えについて……一四一
冒険主義の残りかすについて……一四三
一つの火花も広野を焼きつくすことができる……一四五
経済活動に気をくばれ……一六一
農村の階級をいかに分析するか……一七一
われわれの経済政策……一七五
大衆の生活に心をよせ、活動のやりかたに気をくばれ……一八三
日本帝国主義反対の戦術について……一九一
当面の政治情勢の特徴……一九二
民族統一戦線……二〇三
人民共和国……二〇七
国際的援助……二一三
中国革命戦争の戦略問題……二二五
第一章　戦争をいかに研究するか……二二六

第一節　戦争の法則は発展するものである……二二六
第二節　戦争の目的は戦争を消滅させることにある……二三〇
第三節　戦略問題とは戦争の全局の法則を研究するものである……二三三
第四節　重要な問題はよく学習することにある……二三六
第二章　中国共産党と中国の革命戦争……二四二
第三章　中国革命戦争の特徴……二四六
第一節　この問題の重要性……二四六
第二節　中国革命戦争の特徴はなにか……二四八
第三節　ここからわれわれの戦略・戦術が生まれる……二五二
第四章　「包囲討伐」と反「包囲討伐」——中国内戦の主要な形態……二五四
第五章　戦略的防禦……二六〇
第一節　積極的防禦と消極的防禦……二六〇
第二節　反「包囲討伐」の準備……二六五
第三節　戦略的退却……二六八
第四節　戦略的反攻……二八四
第五節　反攻開始の問題……二八六
第六節　兵力集中の問題……二九五
第七節　運動戦……三〇二
第八節　速決戦……三〇九
第九節　殲滅戦……三一三
蔣介石の声明についての声明……三二三

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

抗日の時期における中国共産党の任務……三三
民主的矛盾および国内的矛盾の当面の発展段階……三三
民主主義と自由のためのたたかい……三三七
われわれの指導の責任……三四四
幾百万幾千万の大衆を抗日民族統一戦線にひきいれるためにたたかえ……三五九
平　和　の　問　題……三六〇
民主主義の問題……三六三
革命の見通しの問題……三六六
要　員　の　問　題……三六七
党内民主主義の問題……三六九
大会の団結と全党の団結……三六九
幾百万幾千万の大衆を抗日民族統一戦線にひきいれるためにたたかえ……三七〇

第一次国内革命戦争の時期

中国社会各階級の分析＊

（一九二六年三月）

＊毛澤東同志のこの論文は当時の党内にあった二つの偏向と闘うためにかかれたものである。当時の党内の第一の偏向は陳独秀（ちんどくしゅう）が、代表しており、国民党との提携に気をつかうだけで、農民のことを忘れていた。これは右翼日和見主義であった。第二の偏向は張国燾（ちょうこくとう）が代表しており、労働運動に気をつかうだけで、同じように農民のことを忘れていた。これは『左翼』日和見主義であった。この二つの日和見主義は、いずれも、自己の力の不足は感じたが、その力をどこにさがしもとめればよいのか、広範な同盟軍をどこにさがし求めればよいのかをしらなかった。毛澤東同志は、中国プロレタリアートのもっとも広範な、もっとも忠実な同盟軍が農民であることを指摘した。このようにして、中国革命におけるもっとも主要な同盟軍の問題が解決された。毛澤東同志は、さらに、また当時の民族ブルジョアジーが動揺する階級であること、かれらが革命の高揚期には分化するだろうこと、その右翼が帝国主義の側にはしるだろうことを予見した。一九二七年におこった諸事変がこの点を証明した。

誰がわれわれの敵なのか？　誰がわれわれの友なのか？　この問題は革命の第一の重要問題である。中国のこれまでのすべての革命闘争は成果がはなはだすくなかった。その根本原因は、ほんとの友を結集してほんとの敵を攻撃することができなかったからである。革命の党は大衆の指導者である。革命において、革命の党が指導を誤りながら革命が失敗しなかったことは一度もなかった。われわれの革命がまちがって指導されず、革命がかならず成功するという確信が得られるためには、われわれのほんとの友を結集して、われわれのほんとの敵を攻撃するよう心がけなければならない。われわれがほんとの敵と友とを見わけるためには、中国社会の各階級の経済的地位と革命にたいするその態度とについて、大体の分析をおこなわなければならない。

中国社会の各階級の状態はどうなっているか？

地主階級と買弁階級。経済的におくれた半植民地の中国では、地主階級と買弁階級は[1]、まったく、国際ブルジョアジーの従属物であり、その生存と発展は帝国主義に依存している。これらの階級は、中国のもっともおくれた、またもっとも反動的な生産関係を代表しており、中国の生産力の発展をさまたげている。かれらと中国革命の目的とはまったく相容れない。とくに、大地主階級と大買弁階級は、いつでも帝国主義のがわにたつのであり、極端な反革命派である。その政治的代表は国家主義者[2]と国民党右派である。

〔1〕 買弁階級　買弁という言葉は、もとは外国商人に使われていた中国人仲買人を指したものである。すなわち外国資本が中国で活動するために、中国で代理人としてやとった中国人が買弁である。この意味で、その後は直接に外国商社にやとわれていなくとも、直接・間接に外国資本の活動に奉仕して利益をうる中国の資本家や企業家や官僚などが買弁階級とよばれるようになった。

中産階級。この階級は中国の都市と農村の資本主義的生産関係を代表している。中産階級とは、主として民族

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com